

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒216-8511
住 所 川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏 名 学校法人 聖マリアンナ医科大学 印
理事長 明 石 勝 也
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	学校法人 聖マリアンナ医科大学		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市宮前区菅生2丁目16番1号		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	○	教育、学習支援業
	中分類	81	学校教育
主たる事業 の内容	大学、病院		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		9,994 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	施設部 環境課	
	所在地	川崎市宮前区菅生2丁目16番1号	
	電話番号	044-977-8111	
	FAX番号	044-977-4989	
	メールアドレス	0	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間 及 び 報 告 年 度	平成22年度 ～平成24年度 (報告年度平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 20,514 (調) 20,268 t-CO ₂	(実) 20,872 (調) 20,628 t-CO ₂	(実) 18,367 (調) 18,140 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂	(実) 19,899 (調) 19,660 t-CO ₂
削減率		(実) -1.7 (調) -1.8 %	(実) 10.5 (調) 10.5 %	(実) (調) %	(実) 3.0 (調) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	延床面積		単位	t-CO ₂ /千㎡	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	138.5	140.9	124.0		134.3
削減率		-1.7 %	10.5 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	全体で空調、ボイラーの運転時間の見直しを行い、省エネに取り組んだが、夏期の著しい気温上昇により冷暖用ガスの消費量が増加し、1.7%の増加となった。
第2年度	電力使用制限令による節電を行ったため、電気使用量が著しく減少した。また、空調用ガスの使用量も減少し10.5%の削減ができた。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

年平均1%の削減目標を大きく上回る結果となった。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	○推進体制の整備（体制整備・責任者・委員会） ○空調調和の管理（外気冷房運転） ○空調設備の効率管理（熱源の台数運転） ○換気設備の効率管理（電気室、機械室の換気の停止） ○照明設備の省エネルギー型設備の導入（照明自動点滅器取付） ○照明設備の新設更新等における措置（高効率ランプの採用・昼光の使用できる場所の別回路） ○ボイラーの負荷管理及び効率管理（蒸気バルブの断熱） ○給湯設備の新設更新等における措置（給湯局所式の導入） ○事務用機器の管理（不必要時の電源切断省エネモードの利用）
	第1年度	○推進体制の整備 体制整備・責任者・委員会の設置 ○照明設備の省エネルギー型設備の導入 照明自動点滅器取付渡り廊下などに昼光センサーを取り付けた。 ○給湯設備の効率管理 給湯設備の新設更新等における措置（給湯局所式の導入）を中止し給湯ポンプの運転時間を短縮したことにより個別給湯システムと同じ効果を得た。 ○空調運転時間の短縮、熱源機器の最小台数運転を行う。
	第2年度	○照明設備の新設更新等における措置 体育館アリーナ水銀灯を高輝度ランプに更新した。 蛍光灯故障の都度、インバーター安定器及びHfランプに更新した。 ○ボイラーの負荷管理及び効率管理（蒸気バルブの断熱） 蒸気ヘッダーバルブ廻りの断熱を行い蒸気量の削減ができた。 ○空調調和の管理 東館空調機は中間期に強制外気冷房運転を実施した。 ○空調運転時間の短縮、熱源機器の最小台数運転を行う。 蓄熱槽を利用したターボ冷凍機の台数運転を遠隔で行い昼間の運転時間の削減ができた。
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

昼光を利用した設備設計を行い再生可能エネルギー源の採用を検討する。

[illegible][illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. コージェネレーション導入によるエネルギー起源二酸化炭素の排出量を削減する 2. ライトダウンの参加 3. 法人単位でのクールビズの実施 4. CC川崎に参加 5. 廃棄物の減量化と分別収集を推進
第1年度	1. コージェネレーション導入によるエネルギー起源二酸化炭素の排出量を削減する 実績は別紙「コージェネレーション導入による削減効果」による 2. セタライトダウンに参加し、7月7日外灯を2時間消灯した 3. 法人単位でのクールビズで職員の軽装、啓発を行った 4. CC川崎委員会に参加し最新情報を得た 5. 廃棄物の減量化と分別収集を推進し、廃棄物の分別を徹底した
第2年度	1. コージェネレーション導入によるエネルギー起源二酸化炭素の排出量を削減する 実績は別紙「コージェネレーション導入による削減効果」による 2. セタライトダウンに参加し、7月7日外灯を2時間消灯した 3. 法人単位でのクールビズで職員の軽装、啓発を行った 4. CC川崎委員会に参加し最新情報を得た 5. 省エネチェックシートを活用し省エネ活動を推進した 6. 廃棄物の減量化と分別収集を推進し、廃棄物の分別を徹底した
第3年度	

別紙「コージェネレーション導入による削減効果」

温室効果ガス算定排出量の増減の状況に関する情報

本学は温暖化対策としてコージェネレーションを導入している。

コージェネレーション導入により、発電側で実際には火力発電所の発電量が抑制されるが、全電源平均の排出係数で算出した排出量では、削減効果を適正に評価できない。

この排出量で評価できない削減効果は、コージェネによる発電量10,527MWhと、火力係数 α (0.690kg-CO₂/kWh)および全電源係数 β (0.375kg-CO₂/kWh)から以下のように算出することができる。

コージェネによる発電量 $\times (\alpha - \beta) = 3,316\text{t-CO}_2$

したがって、コージェネレーション導入による系統電力側の削減効果を加味して評価する場合、今年度の排出量は、定期報告書第9表に示す排出量より3,316t-CO₂少ない値となる。

なお、火力平均排出係数0.69kg-CO₂/kWhは環境報告書ガイドライン2003年度版（環境省平成16年3月）を参考とした。

様式第 2 号

(第 6 面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	17,839	t-CO ₂
(調)	17,837	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
学校法人 聖マリアンナ医科大学	川崎市宮前区菅生2丁目16番1号	8161	大学	16,426 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
聖マリアンナ医科大学東横病院	川崎市中原区小杉町3-435	8311	一般病院	1,239 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	1
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--